

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600888	事業の開始年月日	平成17年3月1日	
		指定年月日	平成16年6月4日	
法人名	社会福祉法人 雄飛会			
事業所名	グループホームあいおい			
所在地	(245-0016) 横浜市泉区和泉町7832-1			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	9名	
自己評価作成日	平成24年2月3日	評価結果 市町村受理日	ユニット数	
			1ユニット	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 www.aioisou.com

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人で散歩ができる方、車イスが必要な方、身の回りのことは自分でできる方、生活全てに介助が必要な方と、大きくレベルが違う利用者がいても全体で行事などを行うことを心がけている。利用者9人がそれぞれを認め合えるよう支援している。また、地域のサロン(体操や刺繍教室)に参加し、近所にグループホームがあることを住民に認識してもらっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月10日	評価機関 評価決定日	平成24年6月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】

この事業所は相模鉄道いずみ野駅から徒歩約7分、住宅が点在し、畑や果樹園に囲まれ、自然が残る恵まれた環境に立地している。東には国道402号線(かまくら道)が通り、西の国道18号線から少々入ったところである。建物は平屋建てで、グループホーム専用の建物で、広くゆったりとし、安全に配慮している。

【経営理念と職員体制】

法人は「人格を尊重した思いやりのある暖かい施設を目指します」を基本理念とし、日頃の実践に活かしている。職員は利用者一人ひとりの状態を踏まえ、それぞれに合った生活を目指し、人としての尊厳や年長者としての敬いの気持ちを大切にしながら支援に当たっている。

【健康管理・防災体制 ー利用者の安心と安全ー】

協力医療機関の医師・歯科医による定期的往診があり、医療関連の情報は職員間で共有化している。また、看護師による週1回の健康チェックなどで、利用者の健康管理を行っている。年2回の避難訓練は、夜間など様々なケースを想定し、消防署や近隣の協力を得て実施している。消火器操作や携行コンロを使っての炊事等の実演を行ったりしている。非常食・水等の備えもある。

【地域との交流】

和泉台自治会に加入し、清掃活動や体操教室等に参加している。近隣の小学校の運動会、高校の文化祭に招かれての交流もある。近所の方とは気軽に挨拶を交わし、見守りの協力や野菜のおすそ分けもある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあいおい
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、難しい問題が起こった場合、理念に立ち返り解決に向け話し合う。	法人共通の理念を玄関や事務室に掲示して、日常の介護においても理念を尊重し、職員はその人らしく生活できるように配慮している。看取りの理念も独自に作成し、職員に浸透化を図っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃に参加したり、月2回の自治会の体操教室に参加している。	和泉台自治会に加入し、何人かの利用者が清掃活動や体操教室等に参加している。近隣の小学校の運動会、高校の文化祭に招かれ交流することもある。近所の方とは気軽に挨拶を交わし、見守りの協力や野菜のおすそ分けもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアに来てくれる方には認知症のある入居者であると説明している。また、自治会体操教室の参加者にも受け入れてもらっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回開催し、特に地域へのかかわり方や災害時の対応など意見を参考にしている。	会議は利用者・家族代表、民生委員、泉区の関係者2名が参加して開催されている。事業所の状況報告から始まり、自治会内のゴミ出しのことから、防災時の連携等まで幅広く話合われている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に泉区担当者へ出席してもらって、意見を参考にしている。また職場内研修の為に、泉区役所より「手洗いチェッカー」を借り、衛生管理に役立てている。	「市民セクターよこはま」で開催される区主催の研修には、ケアマネジャーが講師役で協力している。また、区役所とは、研修に必要な機器（手洗いチェッカー）を借用したり、空き情報等を定期的に報告するなどして連携している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠はしないことを前提とし、指導し実践している。</p>	<p>研修や打ち合わせを通じ、事業者全体で拘束をしないケアの推進に努めている。玄関はオープンであるが、職員は声をかけたり、一緒に付き添ったりして、目配りや見守りに努めている。常日頃から、近くの交番に協力を依頼している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員勉強会で取り上げ、研修を行い、全員で注意している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者に成年後見制度をとられている方がおり、その意味を知る。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には事前に訪問し、分かりやすい言葉を使い説明し、理解を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事前に苦情に関する取り扱いを説明している。また面会時に申し出があった要望等はすぐさま対応するようにしている。</p>	<p>家族面談を年2回開催し、利用者の状態説明と同時に、家族からの意見、要望を聴取する機会を設けて、何でも遠慮なく出してもらっている。「あいおい新聞」を年4回発行して、事業所の様子を知らせている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度勉強会を設け、職員からの意見を聞いている。また「連絡ノート」から意見、提案を拾う。	勉強会は職員への研修や情報共有の場であると同時に、職員がケアの方法や備品購入等について、提案する機会にもなっており、業務全体の改善につながっている。また、年1回常勤職員と法人代表との面談の機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシートを用い、職員個々の向上を目指している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修が受けられるよう計画を立てている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は他グループホーム運営推進会議に出席している。また、ケアマネは市民セクターよこはまのセンター方式研修に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集で、本人の意向を確認し、入居後も言動から心情を理解するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報収集で、家族の意向を確認している。入居後はまめに連絡を取り、本人が落ち着くことができるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際、本人、家族の状況を聞き、他のサービスが適切と思われる場合は、そちらを勧めることもある。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯など出来ることを共に行い、生活することを目指している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族行事の際は、家族、職員力を合わせて、入居者の支援をしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	贈り物や手紙が来たら、お礼の電話が出来るように支援している。	利用者の友人が来訪する際には、利用者の都合を優先し、また、来訪者にも事前に利用者の状態を説明しておくなどの支援をしている。年末年始の自宅への外泊や彼岸の墓参り等を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いを必要とする関係を築き、それを維持できるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に連絡を取りその後の様子を聞き、気にかけている。また、看取り介護の振り返りも家族と共に行う。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活歴を把握したうえで、本人の言動から意向を推測し、支援に努めている。	入居時の自宅訪問や面接で利用者や家族から十分に聞き取りを行い、日々の生活に活かしている。日常的には、利用者との会話の中で、思いや意向を把握するようにしている。それが難しい方には、その表情や行動から推測している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面接時に今までの経緯を詳しく聞きよるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の変化に気づき、ケース記録し、それにより職員全員が現状の把握が出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>状態の変化が見られた時は、随時ケース会議で検討する。医師、看護師からの助言も反映される。</p>	<p>入居当初は基本情報を家族から入手し、それらに基づいて計画を作成している。入所後1か月で見直し、通常6か月毎にケース会議などを経て見直す。変化があれば随時見直しを行っている。医師や看護師の意見を計画に反映させている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録や「連絡ノート」に書かれたケアの提案で情報の共有ができる。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>同法人特養のデイサービスに参加できる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のボランティア受け入れ、地域の集まりに参加することにより、入居者の活動的な生活支援に努めている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>2週に一度の往診がある。必要な場合は協力病院に受診する。毎週の歯科往診もある。</p>	<p>利用者1名は、以前からのかかりつけ医の受診を継続しているが、通常の場合は入居と同時に協力医療機関の医師・歯科医の受診に切り替えている。医療関連の情報は記録し、共有化に役立てている。看護師による週1回の健康チェックを行っており、健康管理に留意している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週一回の同法人特養からの看護師訪問時に様子を伝え、問題があれば相談している。		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	文章にて情報提供行う。また往診医は協力病院に勤務している。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	事前にターミナルケアの方針、理念を説明し、実際に取り組んだ事例を話している。その際本人、家族の意向を確認している。	重度化や終末期に関する方針があり、そのことを利用者・家族に説明し、同意を得ている。そのような事態に至った際には、医師や看護師との連携、職員のチームワークにより、介護体制を整えている。	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	定期的に救急法の講習を受けている。職員全員、普通救命講習を修了している。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	火災の想定避難訓練を実施している。備蓄（レトルト食品、カセットコンロ）の備えもある。	避難訓練を年2回実施し、近所の協力もある。1回は夜間を想定している。訓練では火災通報装置や消火器の操作実演、コンロを使っての炊事等も合わせて行っている。利用者の氏名、顔写真、そして緊急連絡先等を記載したファイルも準備されている。	災害対策も徐々に整いつつありますが、昨年の震災を教訓として、様々なことを想定し、その対策を練ると共に、自治会とのきめ細かな連携に期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が気にしていることは、他者に聞こえない声掛けに配慮している。	職員は各利用者の状態を踏まえ、人としての尊厳や年長者としての敬いの気持ちを大切にしながら、その言動に注意を払っている。トイレ・入浴の際の同性介助は、利用者の希望を取り入れている。また、個人情報の使用や関係資料の管理には留意している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解力に合わせた声掛けや、選択肢を提示する。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番、食事の時間は本人の状態、意向に添って変更している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握したうえで、季節、気候に合った衣類の選択を支援する。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けは利用者と一緒に、食事でも会話をしながら楽しんでいる。誕生日には外食の機会を設ける。	利用者は、食材の下ごしらえ、後片付け、食器洗い等、それぞれができる範囲で職員と一緒に、その能力を活かしている。食事では職員も分散して、介助しながら喫食していた。「皆で食べると美味しいね」との利用者からのうれしい言葉があった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>必要な方には水分、摂食量の記録を付けている。保健師の指導も受けている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>それぞれに応じた口腔ケアを実施している。歯科往診医の助言も反映している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>立位がとれない入居者であっても、座位が可能ならトイレ誘導を行なっている。</p>	<p>利用者一人ひとりの排泄パターンを確認表で把握し、定時誘導で支援している。個々の利用者の状況を考え、ある方には必要な介助を、ある方には失敗した時に必要なものを準備するなど、支援の幅を広げて自立支援を心がけている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>飲水量、食事量のチェックや排便に良い食べ物を提供している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>毎日、夜間でも入浴はできる。ただし、一人では入れない方は曜日が決まっている。ゆず湯なども行っている。</p>	<p>入浴は通常週3回の利用者がほとんどで、季節によっては「しょうぶ湯」や「ゆず湯」を楽しむこともある。入浴剤は安全管理上、使用していない。また、利用者によっては、備え付けのリフトを使って入浴する人もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室に帰れるようにし、リビングのソファで横になれるようにしているが、安眠の支障にならないように日中の活動も適度に入れている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし、変更があればわかるようにノートに記録している。それらは自由に閲覧でき、薬のセッティングの際には確認するようになっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や縫い物など自分の楽しみを提供できるようにしている。また、朝夕のカーテンの開閉は入居者に任せるところである。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により家族との外出ができる。本部の自動車を借り、全体で外出もしている。食材の買い物は日課である。	日常的な外出は、利用者の健康状態や希望と、天候の状況に応じて、車椅子の方も含めホーム周辺などに出かけている。ときには買い物に職員と行くこともある。年に数回はドライブに行っており、水族館見学・花見や誕生会の外食の機会も利用者の楽しみになっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは制限していない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人が自室で電話できるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、その季節の絵を描いたカレンダーを作っている。また、庭で栽培している草花を飾っている。玄関ドアにはチャイムではなく、ウィンドベルを設置している。	居間兼食堂は、天井も高く、明るく広くゆったりした間取りであった。季節柄、雛人形や梅の花が飾られ、室内には加湿器等で湿・温度が適切に管理されていた。椅子、ソファも十分な数が備えられ、利用者が自由に過ごせるスペースになっていた。事業所建物の裏に小さい畑があり、利用者が鍬を持って耕し、農作物を育てている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭にはベンチを置き独りになったり、数人で過ごせるようしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具を持ち込んでもらい、自宅に近い環境ができるようにしている。	居室には備え付けのクローゼットがあり、整理タンス、テレビ、鏡、仏壇等利用者のなじみの品々が持ち込まれ、居心地良く過ごすことができる空間になっている。入り口には様々な表札が掛けられてあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを間違わないよう名札をつけ声かけし、習慣付けている。またトイレ内の手すりには目立つように「手すり」と書いて貼る。		